

ばばわたうちやといせき

馬場綿内谷遺跡

(鶴見区No.87 遺跡)

調査期間 20110701～継続中

所在地 横浜市鶴見区馬場

時代

旧石器
縄文
古墳
奈良・平安
中・近世



作成日:20120511

概要

馬場綿内谷遺跡は、首都高速道路株式会社と横浜市による横浜国際港都建設道路事業1・4・6号高速横浜環状北線および馬場出入口(仮称)に伴う事前調査として、2011年7月から記録保存を目的とする発掘調査を実施しています。

遺跡は、横浜市鶴見区の丘陵上で発見されました。周囲には菊名貝塚や寺尾城跡などを縄文時代から中世までの遺跡の分布が知られています。現在行っている発掘調査で、旧石器時代、縄文時代、古墳時代、平安時代、中世、近世の遺構・遺物が見つかっています。

中世～近世の遺構として道状遺構が検出されています。かつての尾根筋上を幅約2mの道が南北にのび、硬くなった面が何枚も重なっていました。道状遺構からは寛永通宝などが出土しています。

平安時代の遺構は、火葬にした人骨をおさめた蔵骨器が4基発見されました。蔵骨器と同じ時代の住居は発見されていません。これらの蔵骨器は当時のムラから離れた場所に埋葬されていた可能性が考えられます。

古墳時代の遺構としては南側斜面下から竪穴住居跡10軒と横穴墓3基が発見されています。古墳時代の竪穴住居跡は南側斜面下の小さな谷に集中し、集落を構成していました。

縄文時代の遺構は、竪穴住居跡5軒・集石土坑4基・落とし穴2基などが発見されています。遺構内からは多数の縄



▲ 調査区航空写真 201112 撮影



▲ 近世 道状遺構

文時代前期の土器が出土し、これらの竪穴住居跡や集石土坑は、縄文時代前期のものと考えられます。また、丘陵の北側斜面には縄文時代前期から中期に属する多量の土器が捨てられた状況が観察されました。前述した古墳時代の集落が丘陵の南側に営まれるのに対し、縄文時代の竪穴住居跡や土器・石器などの遺物は丘陵の北側に集中していました。縄文時代と古墳時代では集落の立地が大きく異なっていたことを示しています。

縄文時代までの調査終了後、丘陵全体に旧石器時代の調査を実施しました。旧石器時代の調査では、丘陵の北側斜面近くで黒曜石の剥片が集中している箇所が発見されています。おそらくこの場所で旧石器時代の人々が石器を製作したのでしょう。



▲ 古墳時代の住居跡



▲ 縄文時代の住居跡